

通所リハビリテーションの現状と 卒業を支援する仕組みの強化

ゆきよしクリニック 短時間通所リハビリ
理学療法士 町田 梨菜

通所リハビリテーションの現状

提供内容

P T ・ O T ・ S T のリハビリスタッフが個別リハビリプログラムを作成・実施。
家庭での自主トレーニングを立案・指導し、それぞれの目標達成に向かってサービスを提供。

対象者

介護認定を受けている方

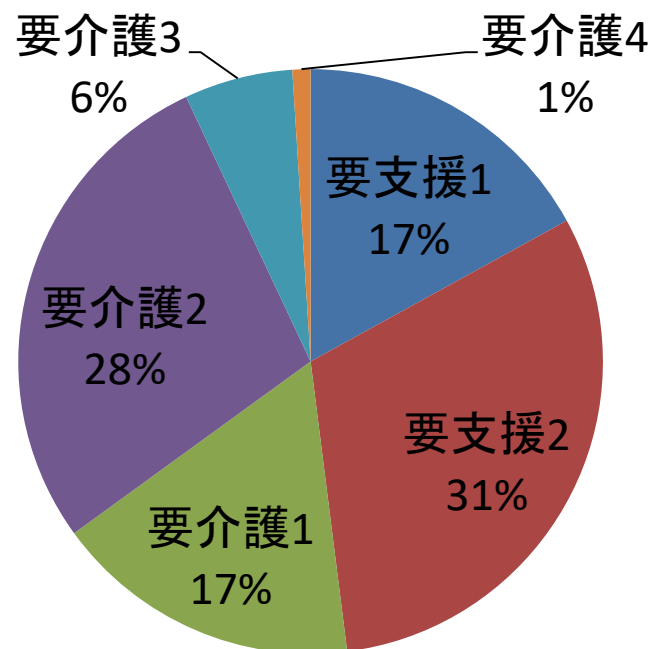
定員

30名

現利用者数

81名

利用者様の介護度



ご自宅にお迎え



バイタル確認



個別リハ
(PT・OT・ST)
物理療法
自主練習

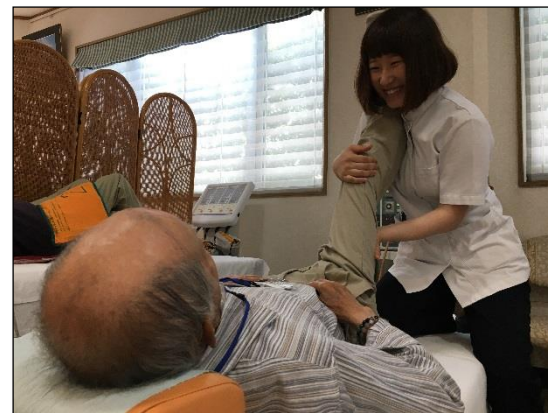


水分補給



ご自宅にお送り

月～金曜 13:00～15:30
(送迎含め1時間～2時間未満)
送迎エリア：江南区、東区、中央区



平成27年度 介護報酬の改定

「活動」と「参加」に焦点をあてた
リハビリテーションの推進

- ①リハビリテーションマネジメント加算(Ⅱ)
- ②生活行為向上リハビリテーション実施加算
- ③社会参加支援加算

新設

「卒業」「終了」を意識した取り組み、
SPDCAサイクルに基づく関わりが重要視！

新設制度

リハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）

通り八事業所職員(医師,看護師,リハ,介護職員)やケアマネージャー,他のサービス事業所を交えた「リハビリテーション会議」の実施と情報共有の仕組みの充実を評価。

開始月から6ヶ月以内	1020単位/月
開始月から6ヶ月超	700単位/月

生活行為向上リハビリテーション実施加算

ADL・IADL,社会参加などの生活行為の向上に焦点を当てた新たな「生活行為向上リハビリテーション」として,居宅などの実際の生活場面における具体的な指導を行う。

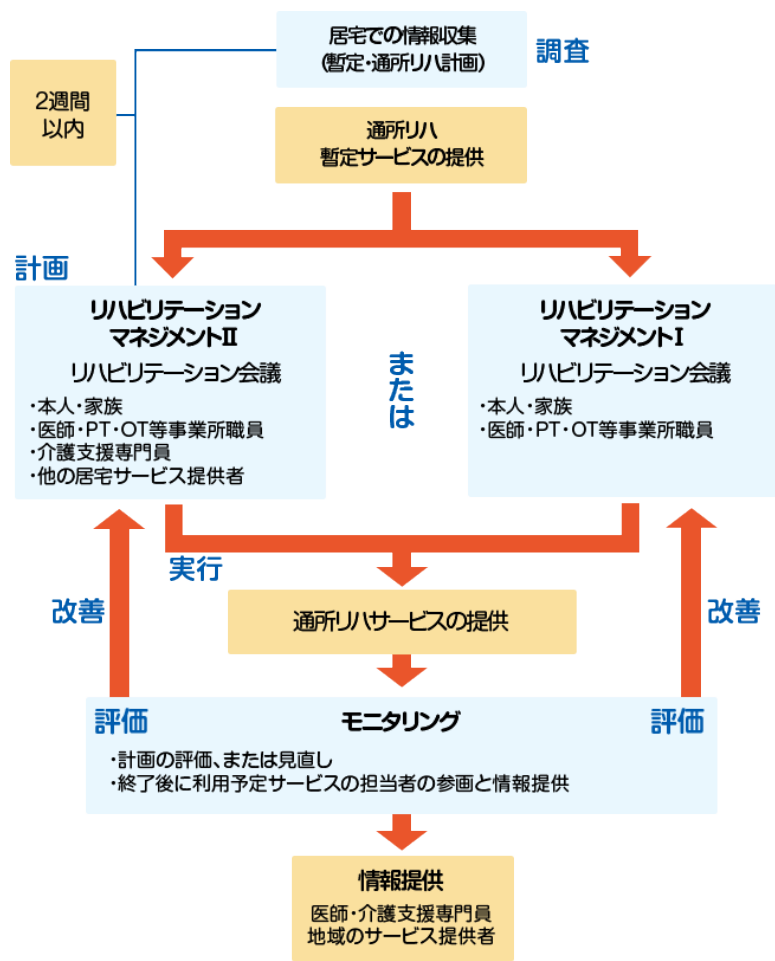
開始月から起算して3か月以内の期間に行われた場合	2000単位/月
開始月から起算して3か月超6ヶ月以内の期間に行われた場合	1000単位/月

社会参加支援加算

社会参加が維持できるサービス等に移行するなど,質の高いリハビリテーションを提供する事業所の体制を評価。

12単位/日

SPDCAサイクルとは？



調査 (Survey)
アセスメント・プランニング (Plan)
実施 (Do)
評価 (Check)
見直し (Act)

このサイクルに基づいて
リハサービスを行うこと

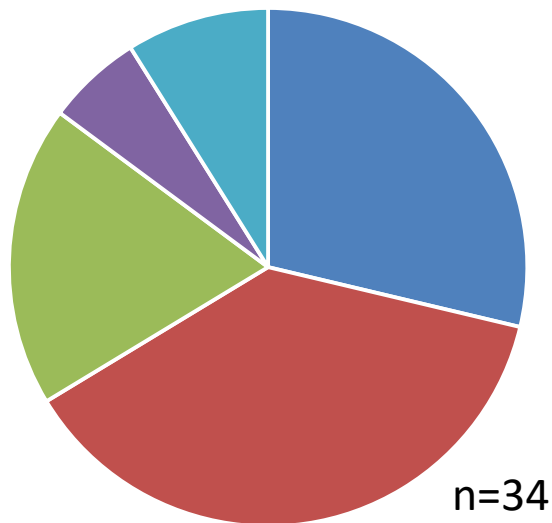
漠然とリハを継続するのではなく、
目標を立ててプロセスを管理し、
必要に応じて計画を修正する

多職種で情報共有することが重要！

卒業に関する現状

H28.1~H29.6

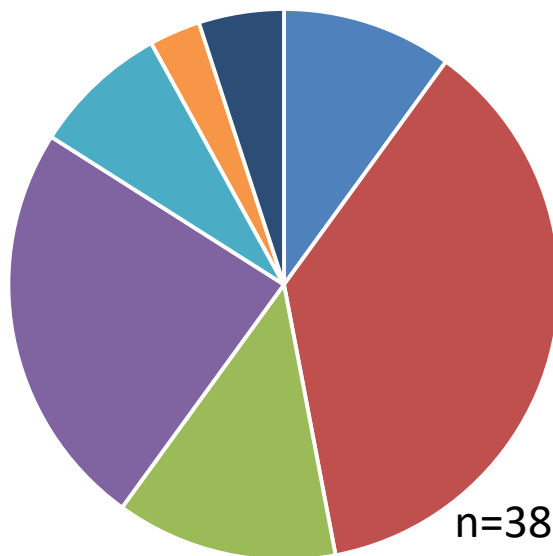
新規利用者



n=34

- 要支援1
- 要支援2
- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3

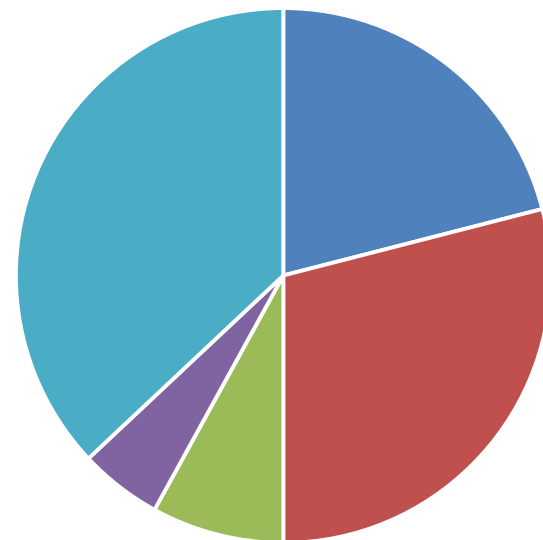
卒業・終了者



n=38

- 要支援1
- 要支援2
- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5

卒業・終了理由



- 目標達成
- デイサービス移行
- 訪問・訪看移行
- 入院
- その他

今までの問題点

平均利用期間：3年4か月
最長利用期間：8年5か月



利用期間が長期化

- 利用開始時に、「終了」「卒業」があるという説明がされていなかった。
- 「卒業」を意識した目標設定がされていない。
- 利用者様とセラピスト間で最終ゴール目標の認識にずれがあった。
- 通所リハビリの利用が「社会参加」という認識になっている。

卒業へアプローチするためには？

- 卒業までを見通すことができるスケジュール作成
- 計画の振り返り,変更,その共有
- 「生きがい」(活動・参加)に向けての関わり



- ケアマネージャーに対して,研修会・説明会の実施
- 本人,家族,ケアマネージャー,通所リハビリ職員,関係する居宅サービス事業所の担当者全ての人が「卒業」に合意,納得する



- 役割分担を明確にし、多職種で関わる
- 情報の共有を行い、進捗状況をお互い確認する



その人らしい生活の獲得

**9月25日より
新しいゆきよし通所リハビリが
始まります！**

＜コンセプト＞

夢を叶える

通所リハビリテーション

新体制

① 午前の子働

② 卒業に向け、段階ごとにアプローチ

心身機能への
アプローチ

「活動」「参加」に関する
模擬的アプローチ

実際場面での適応的
アプローチと環境調整

③ 集団体操やアドバイスシートの作成など

**通所リハビリ卒業後も「生きがい」をもった
生活を送れるよう支援していきます！**